

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891900019		
法人名	株式会社 ふれあい今の庄		
事業所名	ふれあい大地 (もみじ)		
所在地	福井県南条郡南越前町今庄77号11番1		
自己評価作成日	平成 27年 1月 30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成27年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎年、納涼祭を盛大に実施している。(昨年の参加者は、約100名)</p> <p>納涼祭を通して、施設周辺の住民、入居者のご家族の方々と入居者及び職員が、模擬店(焼き鳥、焼きそば、氷水、フランクフルト等)やカラオケ、抽選会などを行っている。</p> <p>準備の段階から、地域住民やご家族の方に参加して頂き、交流の場となっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、宿場町として栄えていた伝統ある閑静な町並みの中にある。利用者は隣の寺に散歩がてらに参拝したり、近所の商店街に買い物に行ったりする。ボランティアと利用者が一緒につるし柿と今庄そばを作って食べることもある。基本理念に「尊厳 安心 地域」を掲げ、その人らしさを支え地域住民と共に安心して暮らせる環境を整えるために、代表者、管理者、職員が一体となりケアの向上に努めている。地域住民の協力を得ながら、畑で作った野菜を毎日の献立に取り入れている。利用者は食事時に「ここは、ご飯がおいしい。家でもこんなおいしい物は食べられん。いいとこや。」と満面の笑みを浮かべている。ゆったりとした時間が流れ、家庭的な温かさで安心した表情が印象的である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が「その人らしく、笑顔で、馴染の人たちと暮らす」ことが出来るよう随時、スタッフがケアカンファレンスを行い利用者が無理せず出来る事や、やってみたい事をケアプランに挙げて日々実践している。	理念を来客用玄関、職員玄関、事務所内に掲示している。「尊厳 安心 地域」の3本柱でその人らしさを支え、地域住民と共に安心して暮らせる環境づくりに努めている。地域密着型サービスの意義を会議で確認し、日々のケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の買い物や散髪などは、近くのお店を利用し商店街イベントにも参加している。施設の納涼祭は、地域住民も参加協力を頂き開催している。地域の文化祭に利用者の作品を出展している。近くの保育園との交流会や学生らの職場体験なども実施している。	日常的に散歩や買い物に外出する他、地域の夏祭りや文化祭等に積極的に参加している。事業所の行事は地域住民がボランティアとして支えている。認知症カフェとして場所を提供する予定もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時に、認知症の方への対応に関する勉強会を行っている。常時、施設見学していただき利用者で交流しふれあいの場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月々のサービス提供の実績報告を行い高い評価を頂いている。委員さんからは、施設内外での研修に積極的に受講させ職員とサービスの質を向上に努めているので良い事と。日常生活の中でのヒヤリハット事故報告を行い信頼を得ている。	家族、民生委員、区長、町、地域包括支援センター職員の参加のもと年6回行事にあわせて開催している。質問、意見、要望が出て積極的に意見交換している。また、議事録を参加者に配布している。	前回の会議で出た意見や要望等の活用方法や、外部評価結果の課題についても会議で報告したうえで、参加者だけでなく全家族に議事録を配布することで、開かれた事業所として更にサービスの質を向上されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々変動がある入居者数や身体状況、介護認定の更新など報告し連携を図っている。又、町より認知症カフェなどの予防支援事業への取組み等について協力依頼がある。	利用者の生活や要望を具体的に伝えている。また、介護予防支援事業として認知症カフェの取組みの依頼もあり、町と積極的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない具体的な行為の説明と理解は職員研修の場で行っている。但し、玄関の施錠は電子錠でロックされている。身体拘束となる事は、本人と家族に説明している。外出したい時は、その都度、職員が解除行って出入りお願い頂く旨を文章で同意を得ている。	職員は研修で権利擁護や身体拘束をしない支援について把握している。支援内容を振り返り、安全重視のために利用者の行動を制限していないか、どう対応すべきかなどを話し合う機会も多い。今後は玄関の施錠も時間を限定する予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、職員研修の場で理解を深め具体的な虐待にあたる行為をしていないかを検証している。又、利用者のケアカンファレンスの中でも話し合いが行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度と理解については、職員研修資料として提供し活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約及び解約や改定等の際は利用者や家族等に説明を行い理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人と家族との面会の際に、施設運営等についての、意見・要望などを口頭でお聞きする機会を設けて意見箱も設置している。	納涼祭等の行事や、6か月ごとのプランの見直し時に家族と面談し、意見や要望を聞いている。意見箱の利用は少ないが、口頭で聞き取ることが多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回、代表者と職員が、一人ずつ現状の課題や問題点をヒアリングしている。ヒアリング結果は、課題や問題点をまとめて改善策を職員会議で提示している。	代表者は年2回職員とのヒアリングで要望や意見を聞いている。月1回の職員会議や自主ミーティングで日頃の支援内容を見直し、設備や業務内容、勤務体制について意見交換し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職の全国平均年収を超えられるように取り組んでいる。 2ヶ月先の勤務表(仮)を作成して、希望休(2回/月)が、自由に取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われる研修は、希望者または、指名して積極的に参加して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との職員交流を積極的に実施している。交流を通して他施設との違いを学んで頂いてレポートを提出してもいい、職員会議の時に感じたことを発表してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前と入所後数ヶ月経ってから本人との面談でアセスメント情報を収集し要望等に耳を傾けながら、ケアプランの見直しを行う事により安心・安全を確保し信頼関係が保てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の面会に来られた際に、家族よりサービス提供に伴う、ご意見ご要望等を聞かせて頂き、相互の信頼関係の維持に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用受付以降、本人や家族らに施設内見学説明後、面接の時に情報収集すると共に主治医意見書、本人家族の主訴を基に見極めて入所判定を実施する。ケアプラン作成、サービス担当者会議で確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅生活の延長線上の暮らし方を目指しており、あくまでも自立支援での生活を重視している。自分の出来る事は今までどおり行い。困難な所は職員と協力し合い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通信にて情報交換や面会、行事、外出、通院などを本人・家族・職員とが協力しながら支え合い絆を維持していくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた理美容室、馴染みのお店での買い物や食事、地域の人らとの交流が途切れないように、職員が橋渡しを行っている。	地域に暮らす馴染みの知人や友人宅、美容院、商店街等へ外出し、継続的に交流が図れるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内の寝室は個室ではあるが、それ以外の生活は共有場所にて過ごしているので馴染みの関係が構築される。テーブルの座席は人間関係が円滑に保たれるように配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で外泊が続いても各関係機関(福祉・医療)と情報を共有して施設生活に復帰できるように状況を見ながら本人・家族の思いを組み入れて判断している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にその方の生活スタイルや希望を聞き、生活に反映している。入居後もコミュニケーションや関わりの中で要望をくみ取り実行している。	家族から聞き取った情報や、日々の関わりの中での言葉や表情から、本人にとって最適な支援に繋がるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族を交えたカンファレンスを行い、これまでの生活歴、好きだった事、昔していた事などお聞きし、それを生かしたプラン作りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の出来る事を見つけ、職員と共に家事など行っている。毎日、バイタルチェックを行い普段と様子の違う事があれば看護師に報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に目標を立てカンファレンスの時にケアの見直しを行い職員間で意見を出し合っている。(介護士、看護師、栄養士、計画作成者)又、家族を交えたカンファレンスも行っている。	担当が記載した個別記録をもとに職員会議で話し合う他、家族を交えてカンファレンスを行っている。センター方式を活用し、記録を色分けする等工夫して確認漏れを防ぎながら情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から特に心身状態の変化に気づくことが出来ることから、健康管理・安全管理やプランの見直し等に活かし反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○時に○○しないとイケない！このようにして下さい！ではなく、その人に合った支援を場所・時間・状況に応じ柔軟な対応を心がけている。 (食事時間、買物や通院の外出)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元産の食材を購入し新鮮で美味しい食を提供している。施設の畑作りや納涼祭には、地域住民と共に協働で参加を頂いている。又、地域の保育園児やレクリエーションボランティアの慰問による交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望される病院で受診出来るよう支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医を選択することが可能であり、基本的には家族が同行するが、緊急時等は職員が同行する。受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の見守りにより異常を感じた際は、すぐに看護師に報告し、適切かつ迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族との適切な情報交換と、病院関係者への確かな情報提供と相談を迅速に行なう事により、スムーズに事を運ぶことが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた生活の準備は行ってはいない。重度化になる前の段階で早期発見治療のため病院へ移転してから、次の行き先を検討している。	重度化や終末期に向けた支援体制は整えていないが、契約時に重度化の前段階で入院してもらうことを説明している。移行先の情報収集などをするほか、円滑に移行できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は、救急法や応急手当の講習を年1回受講し看護師、介護員らで実践に活かしている。急変時の処置対応は看護師が行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの消火・避難訓練は年1回実施している。今庄地区の住民避難訓練にも利用者と職員が参加している。	避難マニュアルを作成し、利用者と共に消防署の立会いの下、年1回避難訓練を実施している。また、地域の防災訓練に利用者と共に参加している。	地域住民にも参加を依頼し、年2回避難訓練を実施することを期待する。また、水や非常食等を十分に備蓄することも期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常での便失禁など入居者の方が嫌がることは言わない様になっている。個人情報や外部にも知らせない様職員には周知徹底している。	自己決定を尊重し、本人の気持ちを大切にしたり、さりげない支援を心がけている。また、個人情報の保護について理解し、情報管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理美容や買物等は自由に希望を受け入れている。外出希望や逢いたい人との面会や通信で支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間に食べなくなったり、ゆっくり眠っていた時など無理強いしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容室に行っている。 入浴時の着替えを自分で選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の下準備、盛り付けなど手伝ってもらっている。季節の行事食など取り入れ提供している。	利用者と一緒に栽培した畑の野菜を使って皮むきや盛り付けをする他、米とぎや片づけ、コーヒー入れ等を職員と共に行っている。食事への期待が高まるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経口補水液を作り水分確保に努めて、きざみ食や食べやすい大きさに切り提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの際には、義歯を外して洗浄する声かけと、見守りをしたり介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別に誘導しトイレでの排泄ができるよう支援介助を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握してトイレに誘導し、トイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし繊維質の多い食事や、水分不足にならないよう。又、全身を使ったりハビリ体操や歩行運動を行いながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの入浴日は決めてあるが、その時の状況により自由に変更したり、強要せずゆっくり楽しめるよう努めている。	週2回の午前中に普通浴、午後からは機械浴ができるよう支援している。同性介助を行い、くつろいで入浴が楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の好みに応じて、就寝時の電気を調節している。入居時に午睡の習慣があるかをたずねる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理の基、薬の内容を把握し職員が服薬を確実にできるよう個別にあった方法で支援し、症状変化の有無の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり得意な事を把握し、掃除、洗濯、手芸等の手作業、家事の手伝いをして頂き、生活に張り合い喜びを持って過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩に出掛けたり、地区の行事に出掛けて行く事で、地域の人達とも顔見知りになり触れ合うことが出来ている。又、個別に買物に出掛けている。	職員全員で外出の年間計画を立て、地域のイベントやバス旅行に出かけている。週2、3回は墓参りや商店街、喫茶店、図書館等への個別外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、所持している方は1名いらっしゃいます。 受診の時の支払いや希望時に一緒に買物に行き、すべて自分で支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もいらっしゃる。希望があれば、電話で会話が出来るよう支援している。書ける方についても年賀状等も書いておられます。家族や知人からも手紙や葉書が届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、各居室にはブラインドがあり、遮光、エアコンもあり適切な温度設定を行っている。 季節感の花を置いたり、季節ごとの絵画づくりに努めている。	事務所、浴室、トイレなど全てを見渡せる開放的な間取りとなっている。大きな窓からは、町並みやお寺、山々が見える。ちぎり絵や習字、暖簾等利用者の作品を飾り、会話が弾むような雰囲気づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、椅子のほか、ホールにソファが2組あり皆の中でも、個別でゆったり過ごす場所になっている。ホールも2箇所あり、気の合う方が少人数で集まったり、居室で利用者2名で過ごされる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、寝具、小物など持ち込んで頂いている。又、家族の写真や施設で撮った写真、季節の花などを飾っている。	利用者はタンスや写真など思い思いの物を持ち込んでいる。居室は温度、湿度が管理され、換気空清機とエアコンが備え付けてあり、快適な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室など判りやすいように低い位置に札で大きく表示している。 ベットの高さは個人に合わせている。 厨房の仕切り窓を取り外して、利用者がお茶の準備などしやすいようにした。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891900019		
法人名	株式会社 ふれあい今の庄		
事業所名	ふれあい大地 (わかば)		
所在地	福井県南条郡南越前町今庄77号11番1		
自己評価作成日	平成 27年 1月 30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成27年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎年、納涼祭を盛大に実施している。(昨年の参加者は、約100名)</p> <p>納涼祭を通して、施設周辺の住民、入居者のご家族の方々と入居者及び職員が、模擬店(焼き鳥、焼きそば、氷水、フランクフルト等)やカラオケ、抽選会などを行っている。</p> <p>準備の段階から、地域住民やご家族の方に参加して頂き、交流の場となっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>もみじユニットに同じ</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が「その人らしく、笑顔で、馴染の人たちと暮らす」ことが出来るよう随時、スタッフがケアカンファレンスを行い利用者が無理せず出来る事や、やってみたい事をケアプランに挙げて日々実践している。	もみじユニットに同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の買い物や散髪などは、近くのお店を利用し商店街イベントにも参加している。施設の納涼祭は、地域住民も参加協力を頂き開催している。地域の文化祭に利用者の作品を出展している。近くの保育園との交流会や学生らの職場体験なども実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時に、認知症の方への対応に関する勉強会を行っている。常時、施設見学していただき利用者や交流しふれあいの場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月々のサービス提供の実績報告を行い高い評価を頂いている。委員さんからは、施設内外での研修に積極的に受講させ職員とサービスの質を向上に努めているので良い事と。日常生活の中のヒヤリハット事故報告を行い信頼を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々変動がある入居者数や身体状況、介護認定の更新など報告し連携を図っている。又、町より認知症カフェなどの予防支援事業への取組み等について協力依頼がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけない具体的な行為の説明と理解は職員研修の場で行っている。但し、玄関の施錠は電子錠でロックされている。身体拘束となる事は、本人と家族に説明している。外出したい時は、その都度、職員が解除行つて出入りお願い頂く旨を文章で同意を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、職員研修の場で理解を深め具体的な虐待にあたる行為をしていないかを検証している。又、利用者のケアカンファレンスの中でも話し合いが行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度と理解については、職員研修資料として提供し活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約及び解約や改定等の際は利用者や家族等に説明を行い理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人と家族との面会の際に、施設運営等についての、意見・要望などを口頭でお聞きする機会を設けて意見箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回、代表者と職員が、一人ずつ現状の課題や問題点をヒアリングしている。ヒアリング結果は、課題や問題点をまとめて改善策を職員会議で提示している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職の全国平均年収を超えられるように取り組んでいる。 2ヶ月先の勤務表(仮)を作成して、希望休(2回/月)が、自由に取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われる研修は、希望者または、指名して積極的に参加して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との職員交流を積極的に実施している。交流を通して他施設との違いを学んで頂いてレポートを提出してもいい、職員会議の時に感じたことを発表してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前と入所後数ヶ月経ってから本人との面談でアセスメント情報を収集し要望等に耳を傾けながら、ケアプランの見直しを行う事により安心・安全を確保し信頼関係が保てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の面会に来られた際に、家族よりサービス提供に伴う、ご意見ご要望等を聞かせて頂き、相互の信頼関係の維持に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用受付以降、本人や家族らに施設内見学説明後、面接の時に情報収集すると共に主治医意見書、本人家族の主訴を基に見極めて入所判定を実施する。ケアプラン作成、サービス担当者会議で確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅生活の延長線上の暮らし方を目指しており、あくまでも自立支援での生活を重視している。自分の出来る事は今までどおり行い。困難な所は職員と協力し合い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通信にて情報交換や面会、行事、外出、通院などを本人・家族・職員とが協力しながら支え合い絆を維持していくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた理美容室、馴染みのお店の買い物や食事、地域の人らとの交流が途切れないように、職員が橋渡しを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内の寝室は個室ではあるが、それ以外の生活は共有場所にて過ごしているので馴染みの関係が構築される。テーブルの座席は人間関係が円滑に保たれるように配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で外泊が続いても各関係機関(福祉・医療)と情報を共有して施設生活に復帰できるように状況を見ながら本人・家族の思いを組み入れて判断している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にその方の生活スタイルや希望を聞き、生活に反映している。入居後もコミュニケーションや関わりの中で要望をくみ取り実行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族を交えたカンファレンスを行い、これまでの生活歴、好きだった事、昔していた事などお聞きし、それを生かしたプラン作りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の出来る事を見つけ、職員と共に家事など行っている。毎日、バイタルチェックを行い普段と様子の違う事があれば看護師に報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に目標を立てカンファレンスの時にケアの見直しを行い職員間で意見を出し合っている。(介護士、看護師、栄養士、計画作成者)又、家族を交えたカンファレンスも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から特に心身状態の変化に気づくことが出来ることから、健康管理・安全管理やプランの見直し等に活かし反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○時に○○しないとイケない！このようにして下さい！ではなく、その人に合った支援を場所・時間・状況に応じ柔軟な対応を心がけている。 (食事時間、買物や通院の外出)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元産の食材を購入し新鮮で美味しい食を提供している。施設の畑作りや納涼祭には、地域住民と共に協働で参加を頂いている。又、地域の保育園児やレクリエーションボランティアの慰問による交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望される病院で受診出来るよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の見守りにより異常を感じた際は、すぐに看護師に報告し、適切かつ迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族との適切な情報交換と、病院関係者への確かな情報提供と相談を迅速に行なう事により、スムーズに事を運ぶことが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた生活の準備は行ってはいない。重度化になる前の段階で早期発見治療のため病院へ移転してから、次の行き先を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は、救急法や応急手当の講習を年1回受講し看護師、介護員らで実践に活かしている。急変時の処置対応は看護師が行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの消火・避難訓練は年1回実施している。今庄地区の住民避難訓練にも利用者と職員が参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常での便失禁など入居者の方が嫌がることは言わない様になっている。個人情報外部にももらさない様職員には周知徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理美容や買物等は自由に希望を受け入れている。外出希望や逢いたい人との面会や通信で支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間に食べなくなったり、ゆっくり眠っていた時など無理強いしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容室に行っている。 入浴時の着替えを自分で選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の下準備、盛り付けなど手伝ってもらっている。季節の行事食など取り入れ提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経口補水液を作り水分確保に努めて、きざみ食や食べやすい大きさに切り提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの際には、義歯を外して洗浄する声かけと、見守りをしたり介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別に誘導しトイレでの排泄ができるよう支援介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし繊維質の多い食事や、水分不足にならないよう。又、全身を使ったりハビリ体操や歩行運動を行いながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの入浴日は決めてあるが、その時の状況により自由に変更したり、強要せずゆっくり楽しめるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の好みに応じて、就寝時の電気を調節している。入居時に午睡の習慣があるかをたずねる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理の基、薬の内容を把握し職員が服薬を確実にできるよう個別にあった方法で支援し、症状変化の有無の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり得意な事を把握し、掃除、洗濯、手芸等の手作業、家事の手伝いをして頂き、生活に張り合い喜びを持って過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩に出掛けたり、地区の行事に出掛けて行く事で、地域の人達とも顔見知りになり触れ合うことが出来ている。又、個別に買物に出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、所持している方は1名いらっしゃいます。 受診の時の支払いや希望時に一緒に買物に行き、すべて自分で支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もいらっしゃる。希望があれば、電話で会話が出来るよう支援している。書ける方についても年賀状等も書いておられます。家族や知人からも手紙や葉書が届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、各居室にはブラインドがあり、遮光、エアコンもあり適切な温度設定を行っている。 季節感の花を置いたり、季節ごとの絵画づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、椅子のほか、ホールにソファが2組あり皆の中でも、個別でゆったり過ごす場所になっている。ホールも2箇所あり、気の合う方が少人数で集まったり、居室で利用者2名で過ごされる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、寝具、小物など持ち込んで頂いている。又、家族の写真や施設で撮った写真、季節の花などを飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室など判りやすいように低い位置に札で大きく表示している。 ベットの高さは個人に合わせている。 厨房の仕切り窓を取り外して、利用者がお茶の準備などしやすいようにした。		